

# 決算説明会

## 業績概要・経営方針

### 第1期 本決算

(2005年4月1日～2006年3月31日)

2006年5月15日

代表取締役社長 庄田 隆



第一三共株式会社



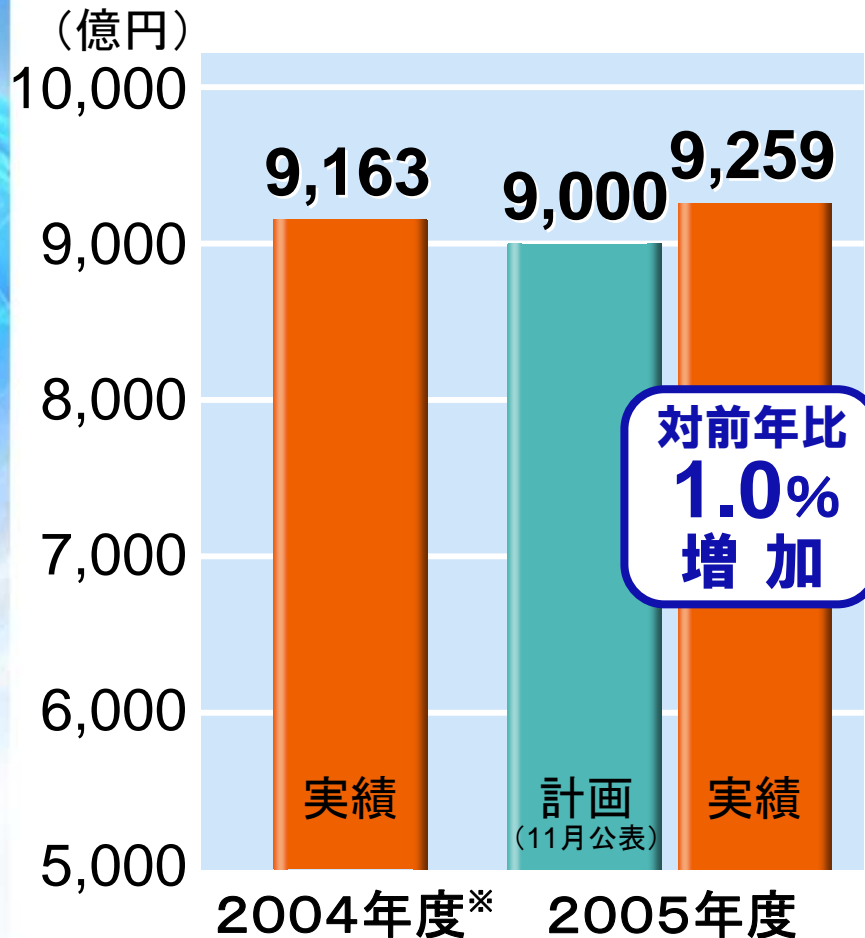
# 決算概況

2006年3月期  
決算内容について

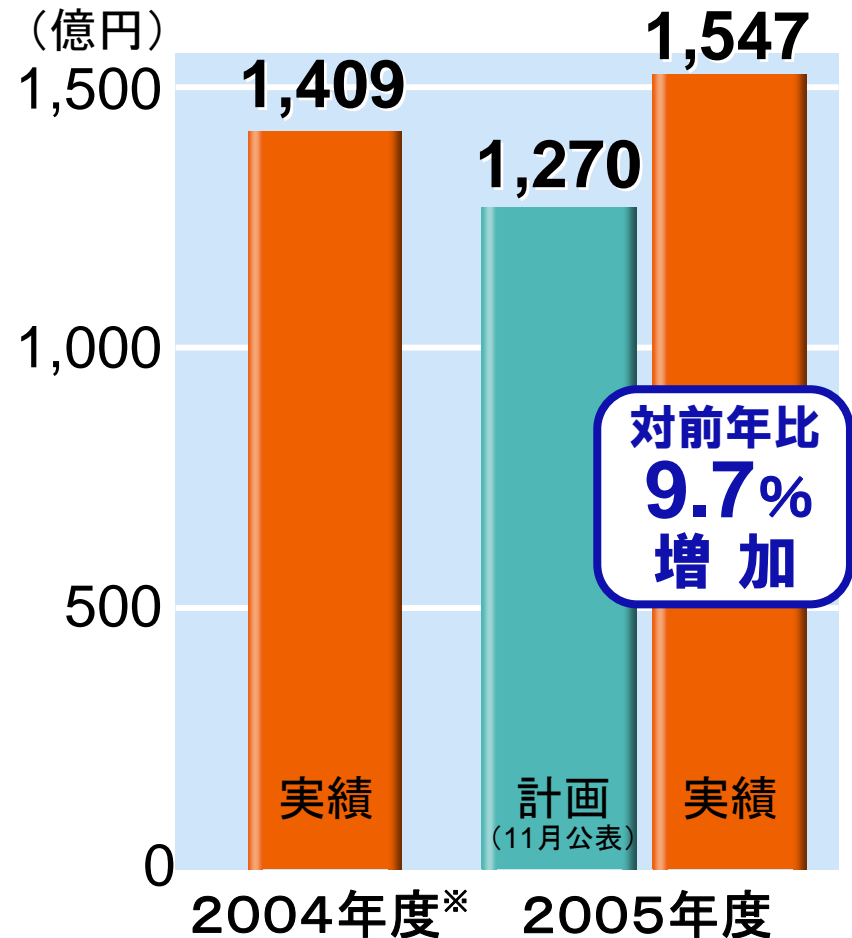


# 第一三共 連結決算(実績)の概要

## 売上高



## 営業利益



※両社の合計を単純に合計



第一三共株式会社

# 主要製品の動向

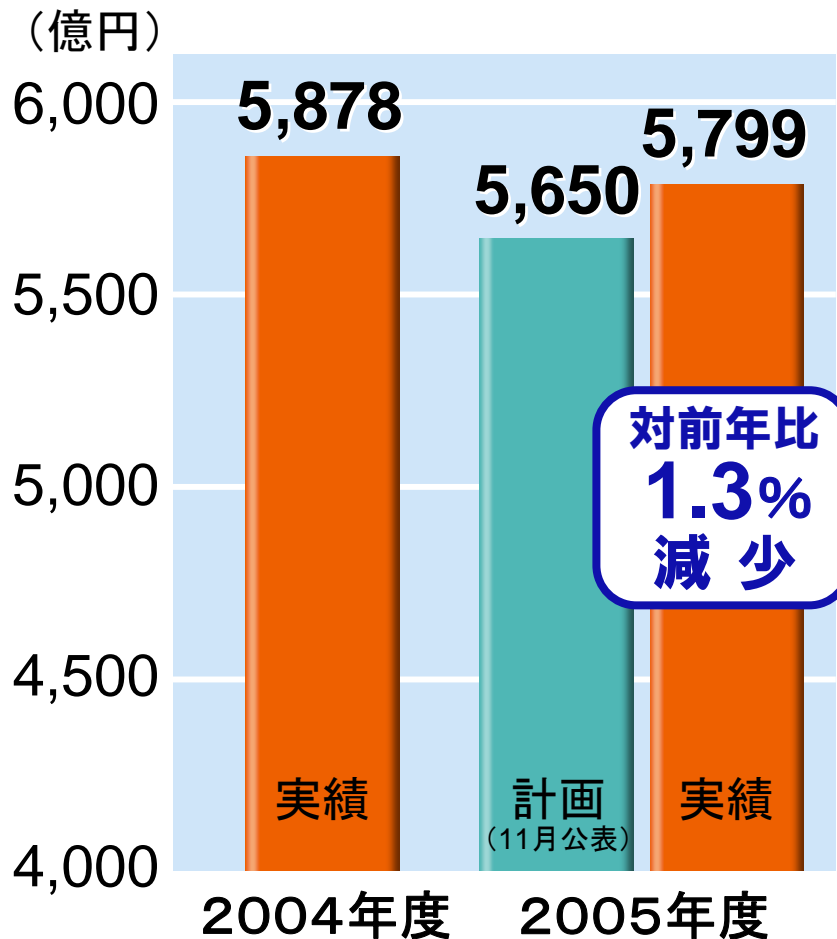
(単位:億円)

製 品 名	2004年度	2005年度		
	通期実績①	計画 (11月発表)	実績②	増減②-① (対前年)
メバロチン	1,667	1,401	<b>1,432</b>	△ 235
国内	825	759	<b>752</b>	△ 73
輸出	770	597	<b>645</b>	△ 125
クラビット	903	958	<b>976</b>	73
国内	471	502	<b>502</b>	31
輸出	242	292	<b>295</b>	53
オルメテック	456	883	<b>924</b>	468
国内	90	240	<b>256</b>	166
米国	303	477	<b>503</b>	200
欧州	58	149	<b>147</b>	89
オムニパーク	342	341	<b>347</b>	5
パナルジン	286	281	<b>283</b>	△ 3
ロキソニン	286	287	<b>290</b>	4
ヴェノファー	194	210	<b>226</b>	32

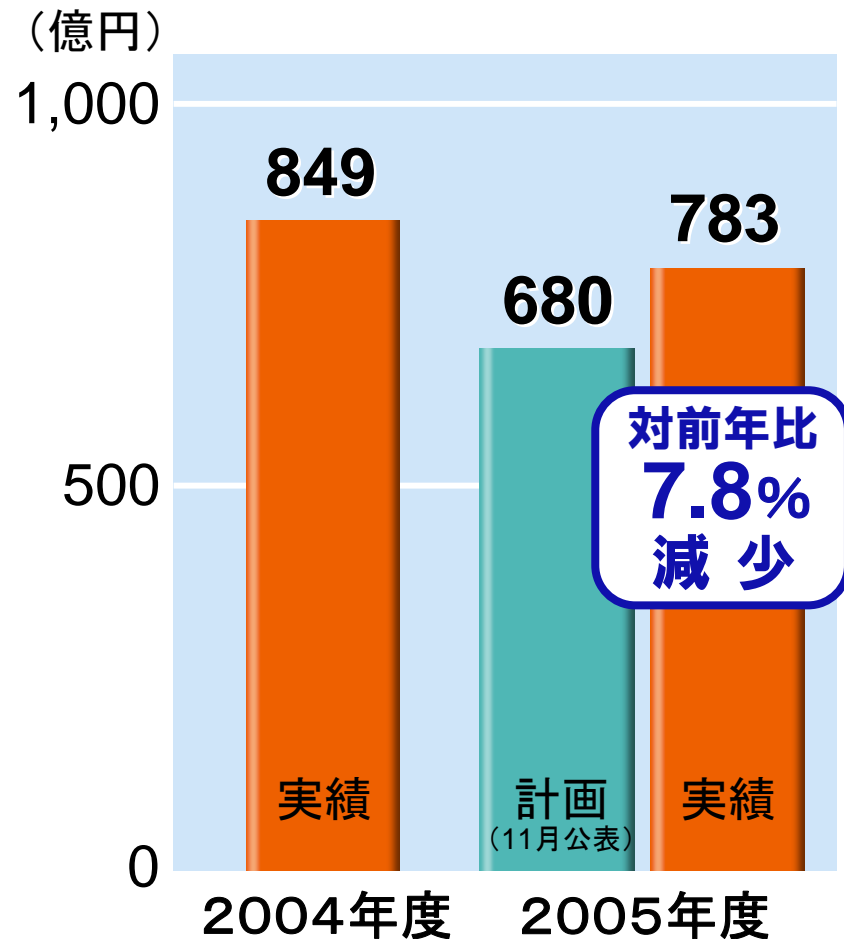


# 三共グループの連結決算実績の概要

## 売上高



## 営業利益



# 三共グループ連結業績差異理由（対11月公表計画）

## 1. 連結売上高 5,799億円(+149億円)

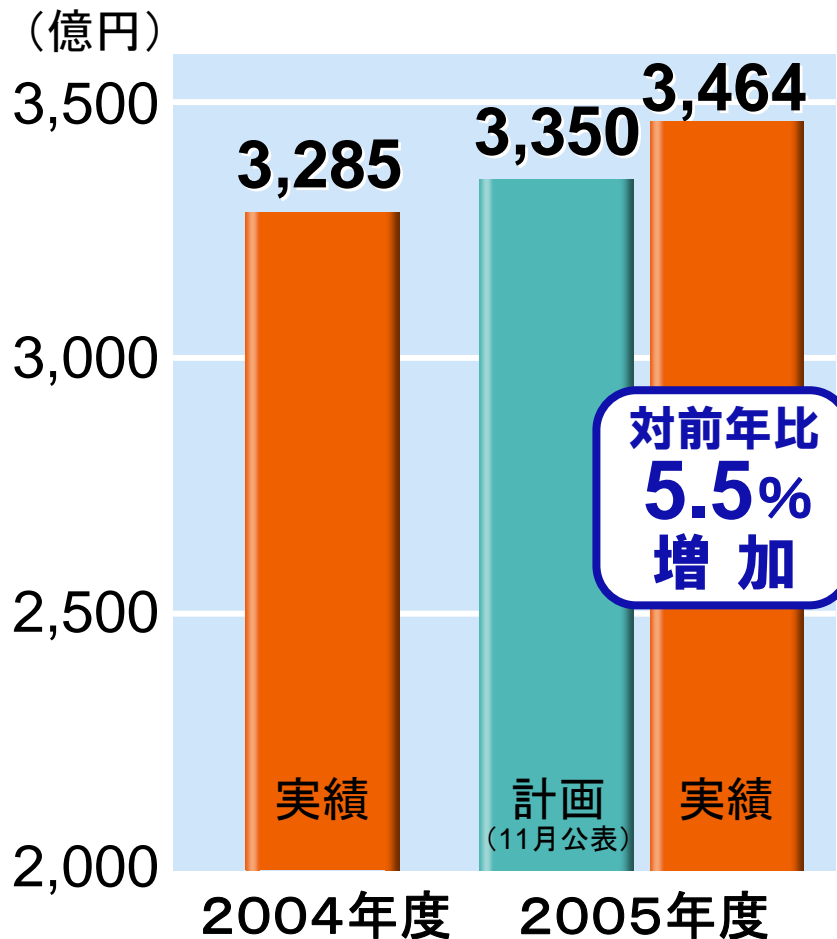
- 国内:「オルメテック」(第一製薬とのコ・プロモーション等により伸長)
- 輸出:「メバロチン」(欧州向け原薬輸出の増加)
- 海外:「ベニカー」(市場における好調な推移により数量・シェア拡大)  
「ヴェノファー」(透析センターとの価格交渉が2006年に先送りとなり  
数量・シェア拡大)
- その他:為替差 +25億円

## 2. 連結営業利益 783億円(+103億円)

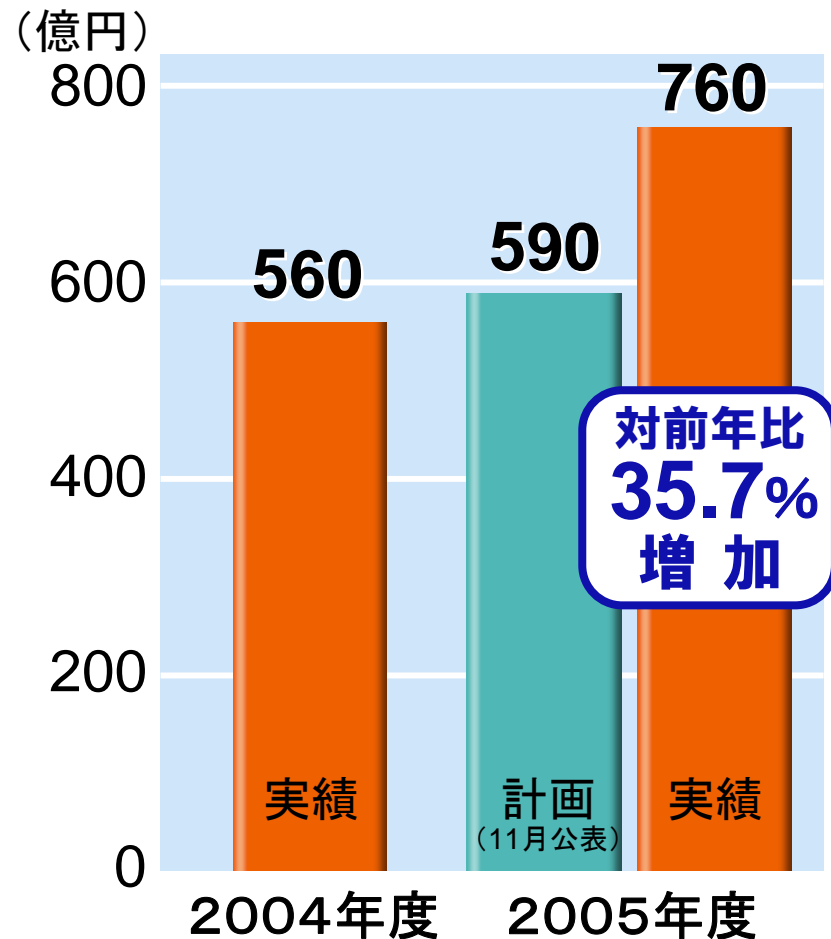
- 原価率改善  
計画35.2%→実績34.2%  
三共品の売上比率拡大  
欧州における旧ライトポルド事業売却一時金などを売上計上<コストフリー>

# 第一製薬グループ連結決算実績の概要

## 売上高



## 営業利益





# 第一製薬グループ連結業績差異理由(対11月公表計画)

## 1. 連結売上高 3,464億円(+114億円)

- 国内: プラビックスの製造販売承認に伴う一時金収入
- 為替差 +約30億円

## 2. 連結営業利益 760億円(+170億円)

- 原価率改善  
計画28.3%→実績26.6%  
プラビックス一時金収入・全般的な原価削減効果
- 研究開発費 約20億円未達
- 為替差益





# 決算概況

2007年3月期  
業績予想

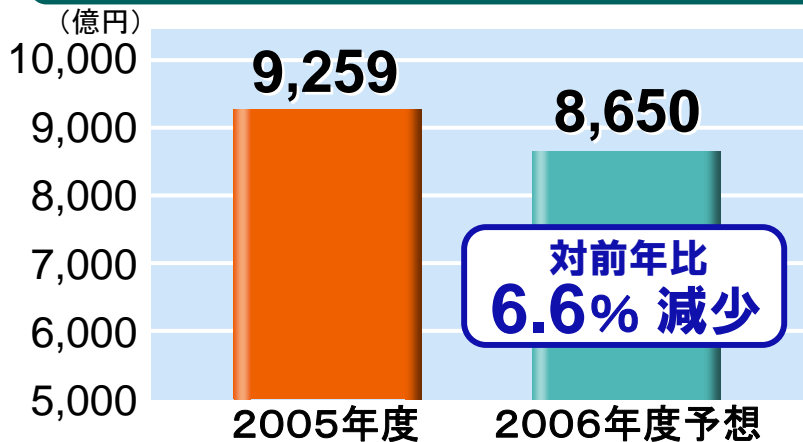
---

**FY06 forecast**

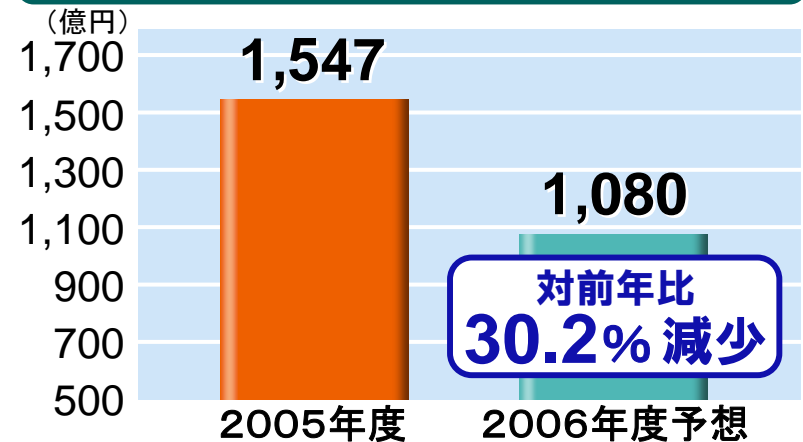


# 第一三共 2006年度連結通期予想数字の概要

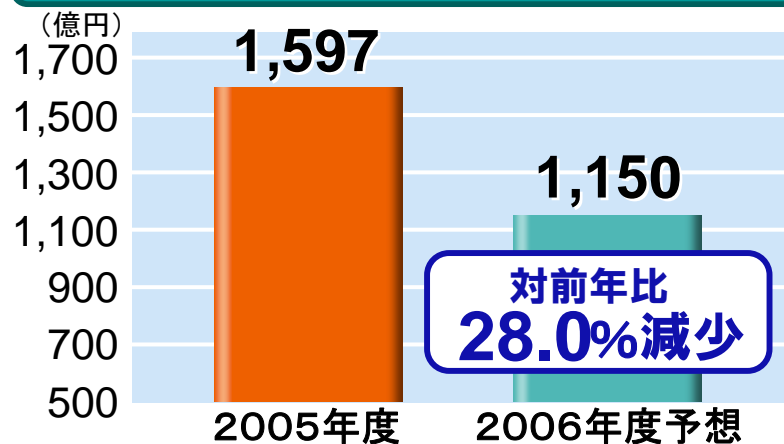
## 売上高



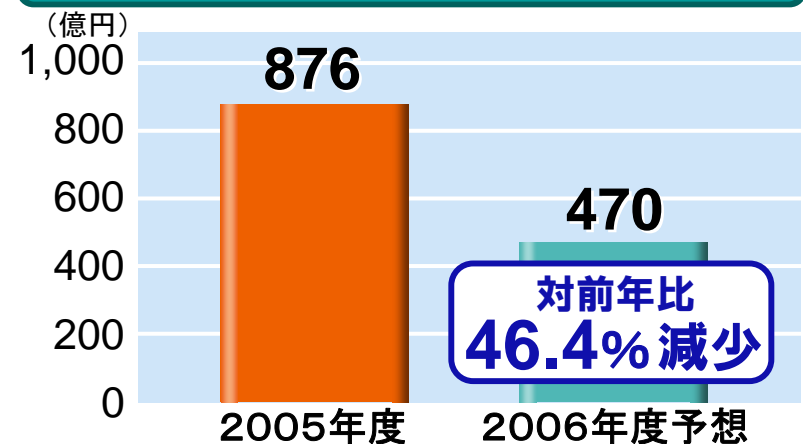
## 営業利益



## 経常利益



## 当期純利益



前提: 非医薬事業については年間売上高・利益の2分の1を計上  
米国の2社(DSI・LPI)については、決算期変更により  
2006年1月～2007年3月の15か月分を計上



# 第一三共 連結通期予想数字のポイント

## 1. 連結売上高 8,650億円(△609億円)

### ■ 医薬品事業

医療用医薬品: 国内コラボレーション、新製品ユリーフ、ロキソニンパップの発売

輸出: 米国特許切れに伴うプラバスタチン原薬売上の減少

海外子会社: 第一三共Inc.およびライトポルドファーマシューティカルズInc.については  
決算期を変更したため、15か月分(2006年1月～2007年3月)を計上  
ベニカー売上大幅アップ

ヘルスケア事業: ゼファーマ社のグループ入り

### ■ 非医薬品事業 年間売上高の2分の1を計上

## 2. 連結営業利益 1,080億円(△467億円)

### ■ 医薬品事業

米国特許切れに伴うプラバスタチン輸出売上減少

研究開発費など販管費増(研究開発費1,587億円⇒1,670億円)

### ■ 非医薬品事業 年間営業利益の2分の1を計上

## 3. 当期純利益 470億円(△406億円)

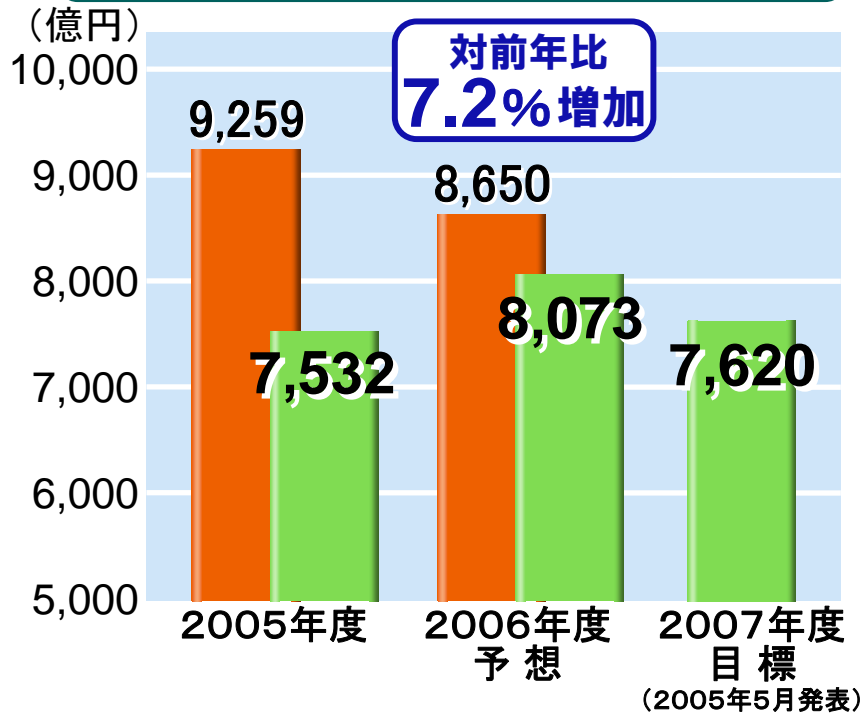
### ■ 特別利益: 和光堂等の想定売却益など

### ■ 特別損失: 統合関連対応費用など

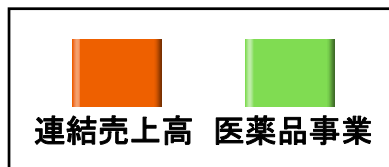
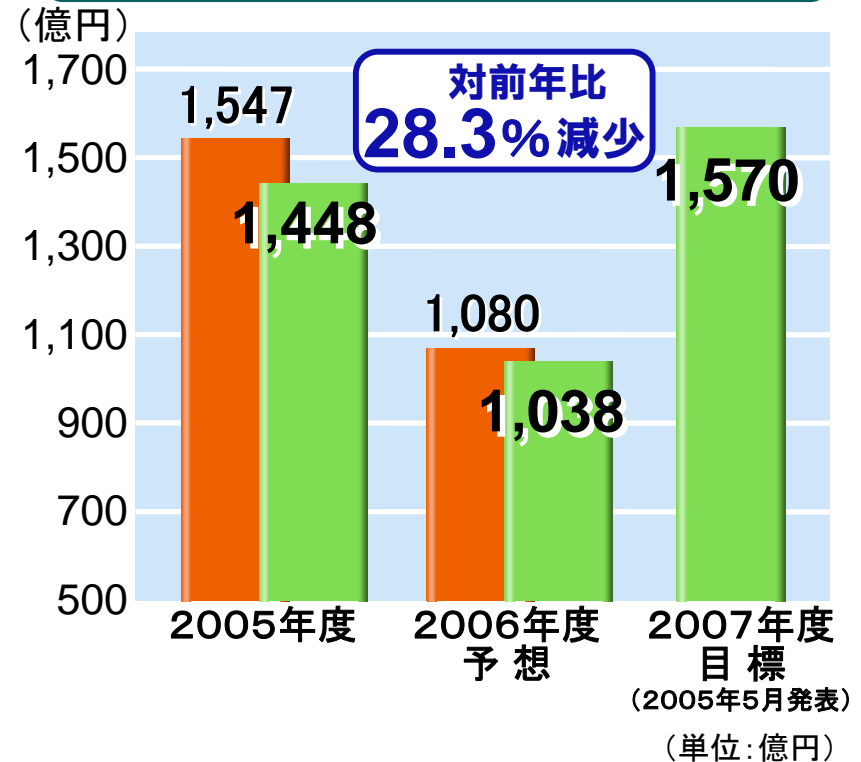


# 医薬品事業の概況

## 売上高



## 営業利益



	2005年度	2006年度予想	2007年度目標
売上高	7,532	8,073	7,620
営業利益	1,448	1,038	1,570

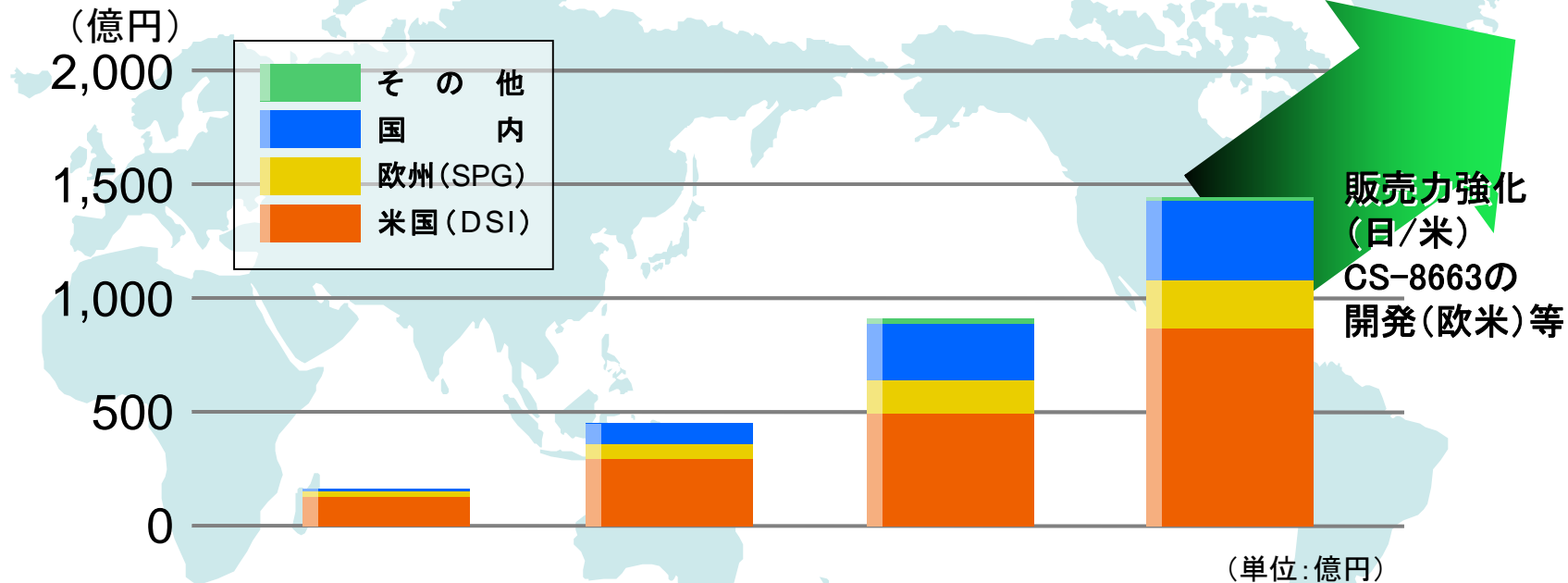
※2006年度は、米国DSI・LPI 2社について15か月分計上 ゼファーマ分を含む



第一三共株式会社

# オルメテック・ペニカー(オルメサルタン) 売上の推移

## 現在35カ国・地域で販売



	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度予想
計	165	456	924	1,453
国内	0	90	256	354
米国(DSI)	132	303	503	870*
欧州(SPG)	24	58	147	206
その他	9	5	18	23

※DSIについては15か月分を計上

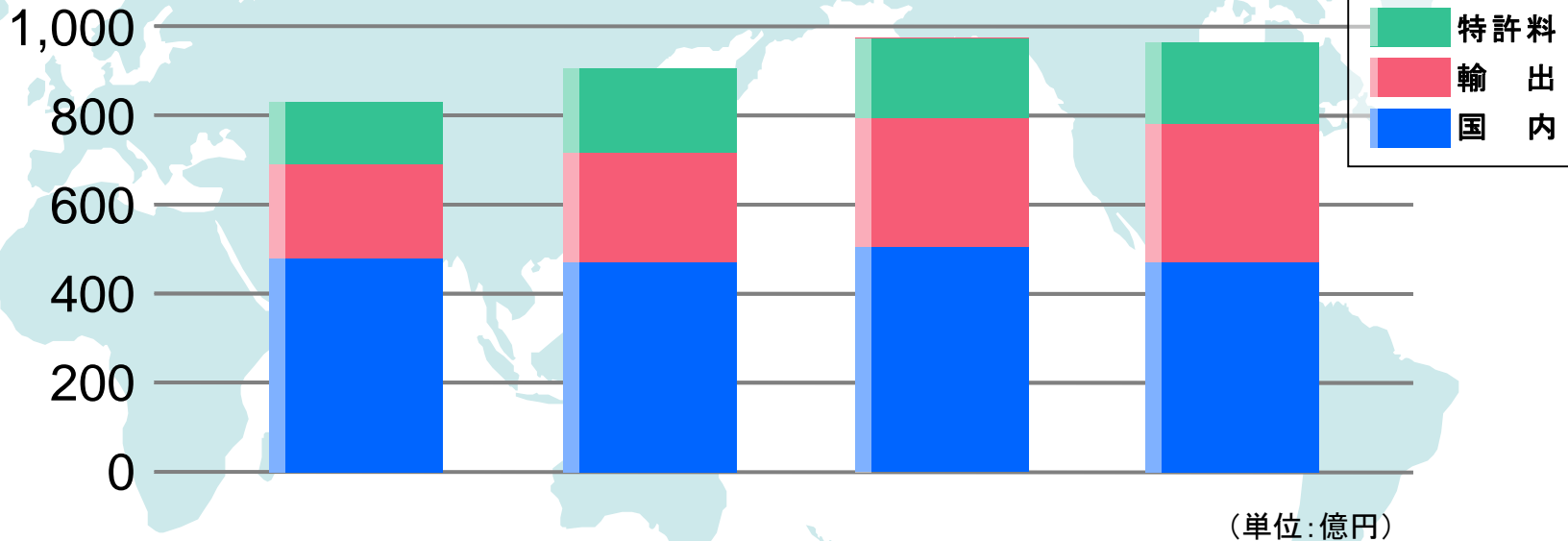


第一三共株式会社

# クラビット(レボフロキサシン) 売上の推移

## 将来に向けたライフサイクルマネジメントの取組みを強化

(億円)

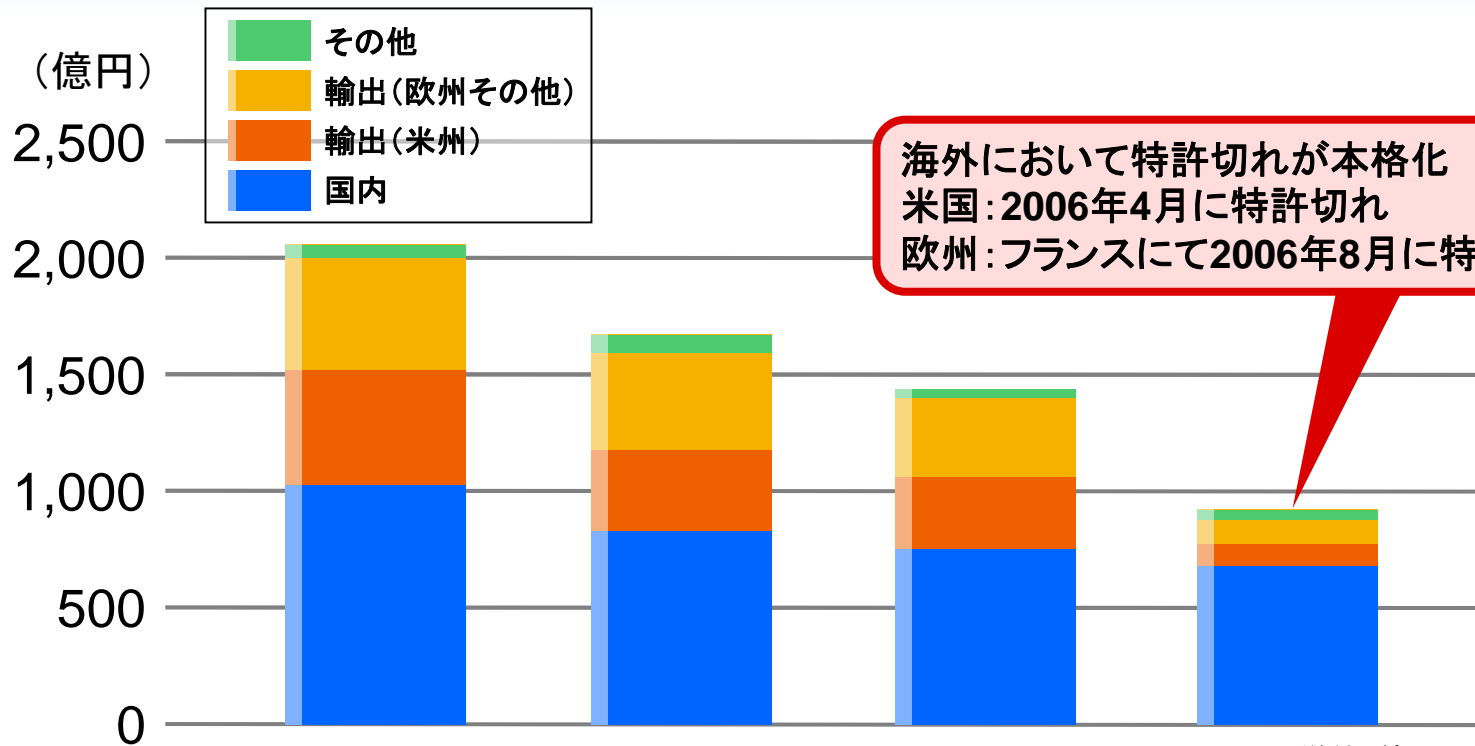


	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度予想
合計	824	903	976	959
特許料	142	190*	179	180
輸出	208	242	295	303
国内	474	471	502	476

※2004年度の米国特許料について一部計算期間を変更しており、15か月分を計上しております。



# メバロチン(プラバスタチン) 売上の推移



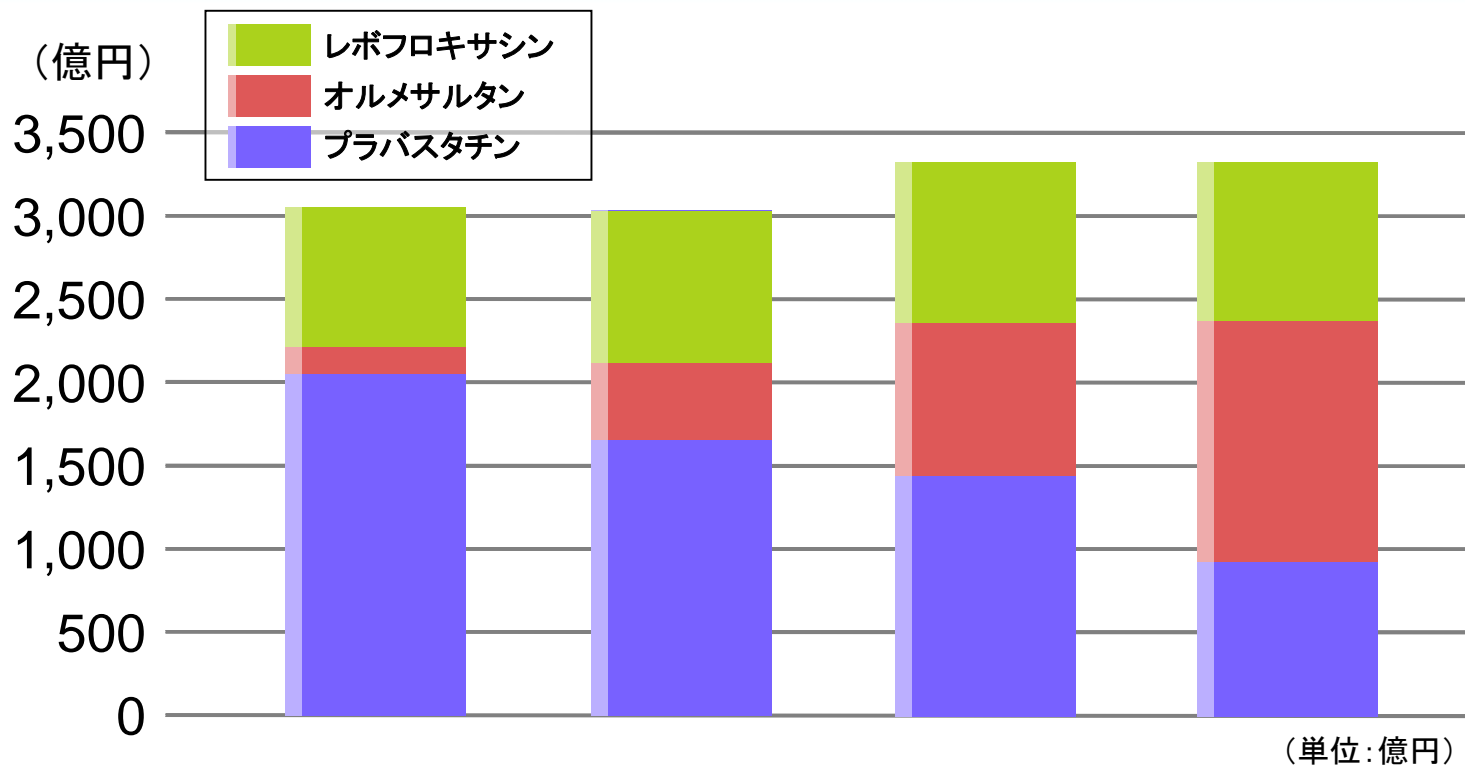
(単位: 億円)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度予想
合計	2,054	1,667	1,432	920
輸出	983	770	645	192
国内	1,018	825	752	682
その他	53	72	35	46





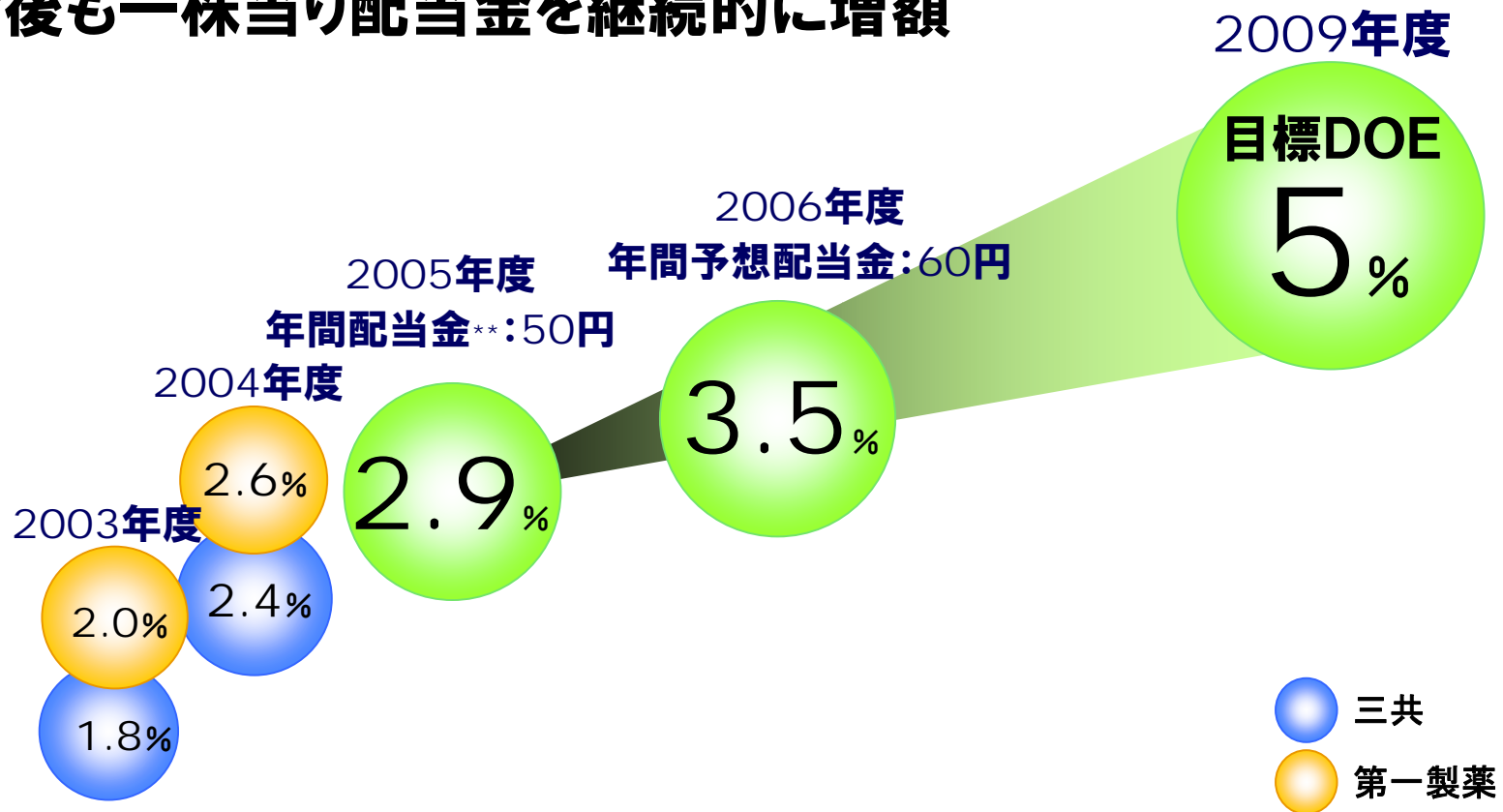
# 第一三共グループ 主力3製品の推移



	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度予想
合 計	3,043	3,026	3,332	3,332
レボフロキサシン	824	903	976	959
オルメサルタン	165	456	924	1,453
プラバスタチン	2,054	1,667	1,432	920

# 配当に関する考え方

2009年度目標DOE5%に向け、  
今後も一株当たり配当金を継続的に増額



\* DOEとは、株主資本配当率。1株当たり株主資本に対する配当金の割合。DOE=配当性向×ROE

\*\* 2005年度中間配当については両社とも株式移転交付金





# 決算概況

経営統合への  
取組み状況

**FY06 forecast**



# 第一三共グループの事業ポートフォリオ

現在

2007年4月

三共株式会社  
医薬品事業

第一製薬株式会社  
医薬品事業

三共グループ医薬関連子会社

第一グループ医薬関連子会社

三共グループ  
非医薬品事業

第一製薬グループ  
非医薬品事業

三共グループ  
海外子会社

第一製薬グループ  
海外子会社



Daiichi-Sankyo

機能新会社

生産系	管理支援系	研究開発支援系	物流系
-----	-------	---------	-----

第一三共ヘルスケア  
**ZEPHARMA**  
ゼファーマ

第一アスピオファーマ

海外グループ会社

アメリカ: DSI LPI

ヨーロッパ	アジア	南米
-------	-----	----

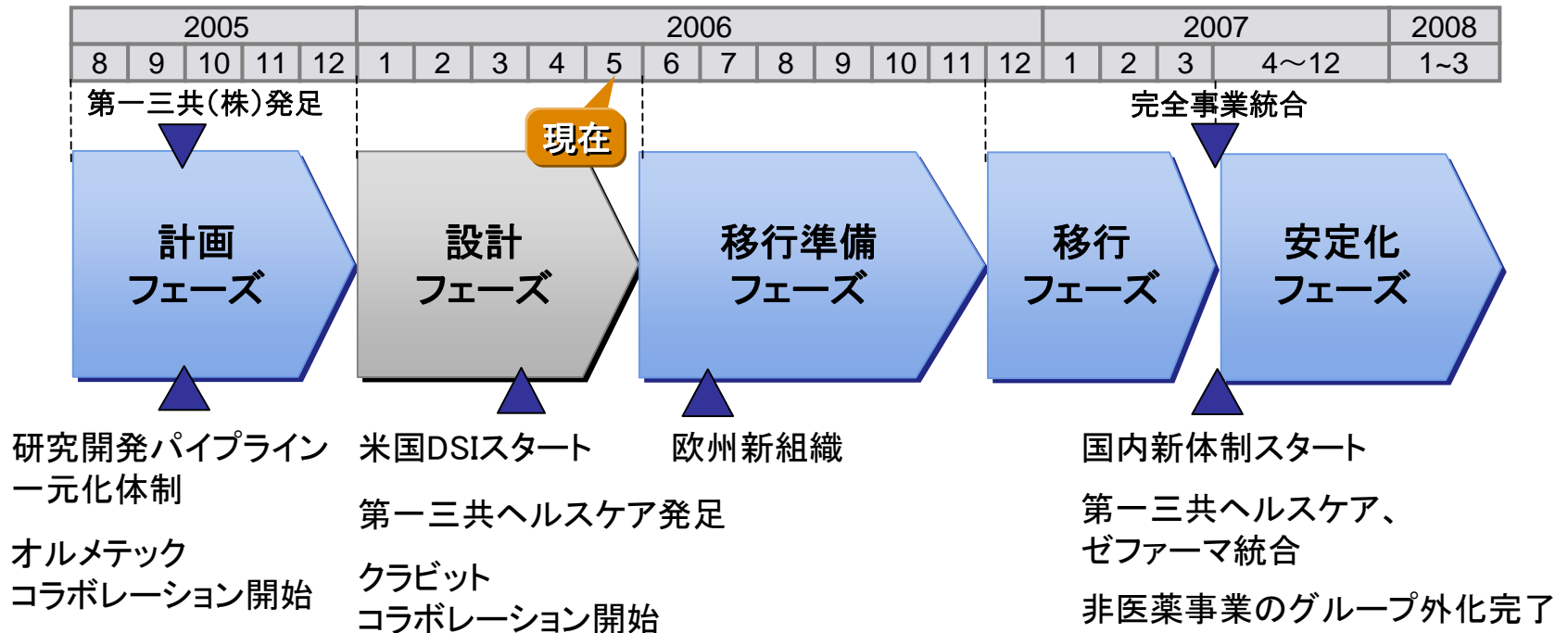
2007.3  
までに  
自立化



第一三共株式会社

# 経営統合の進捗状況

- 20以上のタスクフォースおよびチーム(例:営業タスクフォース、Global R&Dタスクフォース、人事タスクフォースなど)が統合準備作業を進めている。
- 統合準備作業には5つのフェーズがあり、現在は設計フェーズの大詰めである。



# 米国組織の統合

## ■2006年4月に、両社の営業・開発拠点を(SPI・DPC・DMR)を統合しDaiichi Sankyo, Inc. が発足

- 営業拠点: ニュージャージー州 パーシパニー (Parssipany)
- 開発拠点: ニュージャージー州 エジソン (Edison)
- 研究拠点: カリフォルニア州 ラホーヤ (La Jolla)

## ■2006年度の業績予想 (営業部門 2006年1月～2007年3月)

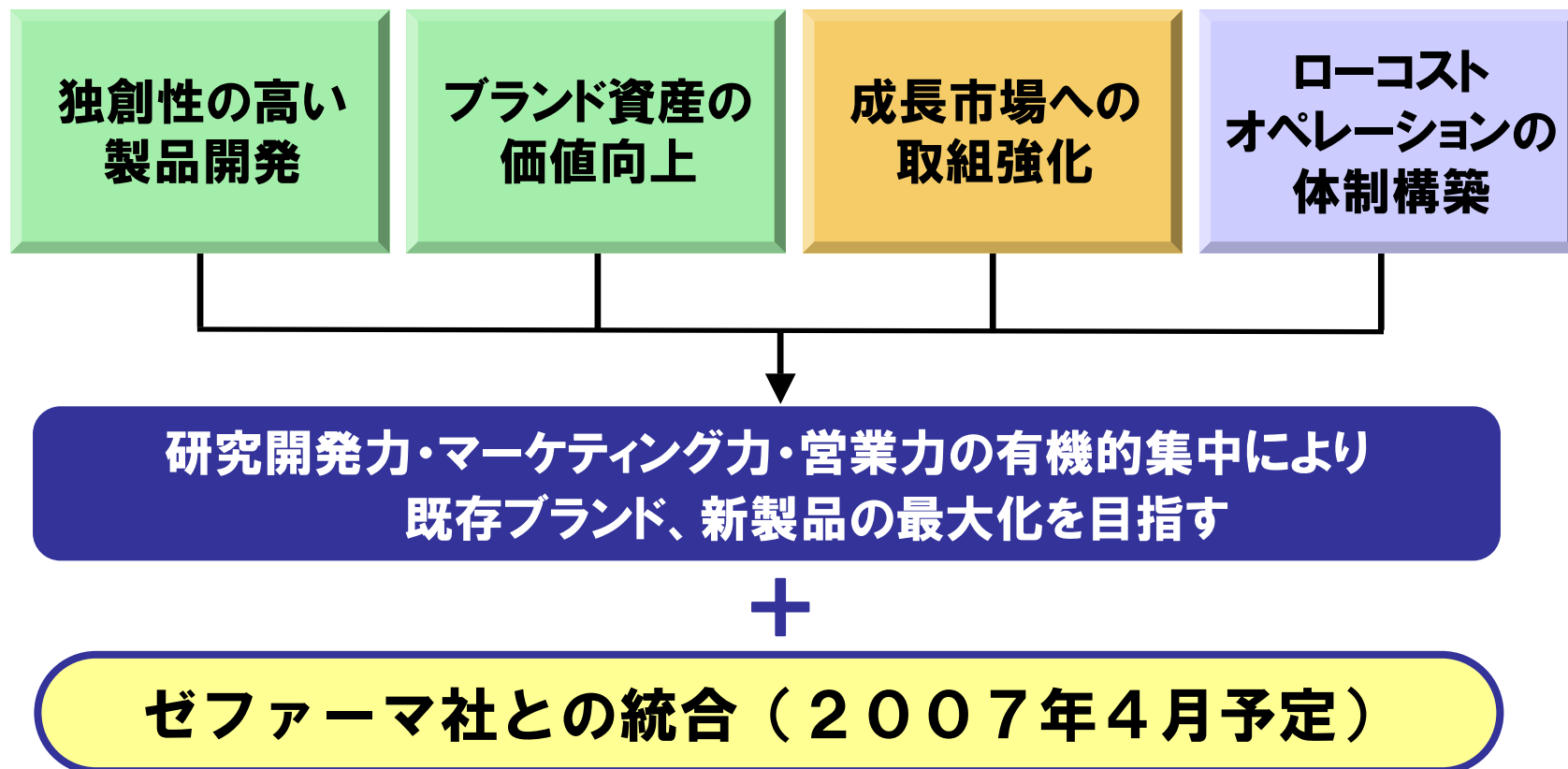
売上高: 1,058百万ドル

(ベニカー: 757百万ドル ウェルコール: 180百万ドル)  
(フロキシノティック: 67百万ドル エボザック: 23百万ドル)



# 第一三共グループのヘルスケア事業戦略

- 売上高542億円(第一三共ヘルスケア(株)+ゼファーマ(株))でスタートし、中長期的に1,000億円規模を目標とする





# 非医薬品事業のグループ外自立化

## ■経営統合以前からの取り組み

- 三共グループ
  - 三共通商の株式売却(2004年5月)
  - 三共フーズの営業譲渡・日本ダイヤバルブの株式譲渡(2005年2月)
- 第一製薬グループ
  - 動物薬事業を明治製菓に譲渡(2004年6月)
  - 東京医薬紙器(株)・西邨紙器(株)の株式一部売却(2005年9月)  
により非連結化

## ■経営統合後の取り組み (2007年3月末完了予定)

- エフピー化工の株式売却(2006年1月)
- 富士製粉(株) 日東製粉(株)と合併(2006年4月)により非連結化
- アサヒビールによる和光堂株式のTOBに応募(2006年4月)



# 最優先開発プロジェクト

5つの最優先開発プロジェクトは順調に進捗している。

Project Name	Class
Prasugrel (CS-747)	抗血小板剤
DU-176b	抗Xa剤(抗凝固剤)
CS-8663	オルメサルタンとアムロジピンの配合剤
DJ-927 oral	タキサン誘導体(抗癌剤)
DZ-697b	抗血小板剤

# 研究開発パイプラインの状況

## 3月28日 R&D説明会以降の主な進捗状況

### ■ 発売

- DL-404 (ギャバロン髄注、日本) 抗痙縮剤
- KMD-3213 (ユリーフ、日本) 排尿障害治療剤
- LX-A (ロキシニンパップ、日本) 消炎鎮痛剤

### ■ 承認取得

- DL-8234 フェロン効追 (C型代償性肝硬変、日本)

### ■ フェーズII移行

- CS-866AZ オルメサルタンとアゼルニジピンの配合剤 (日本)

### ■ フェーズI移行

- CS-0777 免疫抑制剤 (米欧)
- SUN-11031 グレリン (米欧)



本資料に関するお問い合わせ先

**第一三共株式会社**  
**コーポレートコミュニケーション部**

**TEL: 03-6225-1126**

**FAX: 03-6225-1132**

本資料における将来の予想等に関する各数値は、現時点で入手可能な情報に基づく弊社の判断や仮定によるものであり、リスクおよび不確実性が含まれております。したがって実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。